

子ども支援・特別支援研究会について



01

趣旨

本来、学齢期の子どもは、家庭と学校と地域に居場所をもち、安全で健やかな生活を送りながら、学校で学びを深め、人との関わりを通して青年へと成長し、社会の一員になっていくものである。しかしながら、一部の子どもたちは、不登校、引きこもり、虐待やネグレクト、問題行動や非行など様々な問題に直面したり、また問題を抱え込んだりしている。子どもが孤立したり、問題が深刻化したりする前に、必要な支援、適切な支援を行うことは、子どもに関わる大人たちの重要な責務である。

子どもに関わる大人は、それぞれの職や立場からできる支援を考え実行するとともに、より適切な資源につなげて支援のネットワークを広げる営みが必要である。子どもを真ん中に置いて、関係者がそれぞれの立場でできる支援を有効に紡いでいくことが、問題解決を促進し、子どもの成長と自立につながる力になる。その役割を果たすため、スクール・ソーシャルワーカー（SSW）への期待は大きい。自治体や組織の長の考え方の違いにより動きやすさも異なり、SSW との協働については、今後の実践や研究の積み上げが望まれるところである。

そこで、このたび、こうした問題に関心を寄せる教育と福祉の関係者が発起人となって、「特別な支援を要する子どもたちへの支援」の在り方について学び合う研究会を立ち上げることにした。ここで言う「特別な支援を要する子ども」とは、「障害のある子ども」に限らず、「問題解決に向けての見立てと見通しを明確にした、より特別な支援が必要な子ども」を言う。当然ながら、障害のある子どもたちへの「特別支援教育」の視点も重要である。

現実に起きている子どもの問題を直視し、子どもを真ん中においた事例研究を深めることをとおして、子ども支援の質を高め、支援者のスキルアップを図るとともに、支援者の考え方によりどころとなる研究組織を目指していく。

02

目的

特別な支援を必要としている学齢期の子どもについて、互いに提供する事例の見立てや具体的な支援方法の検討をとおして、子どもの社会的自立に向けた生活環境を保障する支援のスキルアップとともに住民や関係機関が連携・協働する地域づくりを目指す。さらに実践的かつ理論的な研究につなげる。

特に、問題行動や不登校によって子どもが孤立することを防止するため、早期介入による問題解決や、その子の現実に応じた学習機会と社会参加の確保のための支援について、学び合う。

03

世話人・協力者

【世話人】

代表・朝日滋也
諏訪 徹
竹村睦子

(東京都立大塚ろう学校統括校長)
(日本大学文理学部社会福祉学科教授)
(一般社団法人子ども・若者応援団代表理事
ソーシャルワーク事務所みらい ソーシャルワーカー)
(葛飾区・墨田区スクールソーシャルワーカー)

中島 淳

【協力者】

太田由加里
加藤憲司
草開宣晶
佐竹由利子
橋本顕嗣

(日本大学文理学部社会福祉学科教授)
(文京区立大塚小学校校長)
(世田谷区立東深沢小学校校長)
(一般社団法人東京臨床心理士会 臨床心理士)
(町田市立忠生中学校校長)

04

内容

(1) 前回までのふりかえり

(2) 事例検討

STEP

1

提供者から事例提供

STEP

2

事例への質問・内容の確認

STEP

3

参加者による支援に関する具体的な提案

